平成１８年　8月　9日

能代山本だより

第２３号

能代山本の梅雨開けは８月２日でした。平年より６日遅く、昨年より２日早くなっています。

夏本番にようやく入り、夏のイベントや海水浴などで賑わっています。夏休みや帰省で、ＪＲや空港、高速道路も混んできています。

能代ＰＲ大使の皆様のなかにもこれから、能代に来る予定を立てている方がいると思います。今年も能代の夏を楽しんでください。

イベント

●能代山本 3 カ所は「適」／海水浴場　6-7-1

秋田県は 30 日、県内 16 カ所の海水浴場などの水質調査結果を発表しました。能代山本では、環境省が今年度「快水浴場百選」に選んだ三種町の釜谷浜、能代市の能代、八峰町の岩館ともに海水浴に適した水質で、釜谷浜、岩館については昨年に引き続き「AA」と判定されました。

●11 月に脚本家映画祭／能代 FC　6-7-2

能代フィルムコミッション（FC）の総会は 13 日、能代市柳町のプラザ都で開かれ、今年度事業計画などを決めました。11 月に「能代脚本家映画祭」を開催するほか、川や海といった素材を生かして釣りをテーマにした映画誘致を目指して積極的にロケ誘致活動を展開、会員数 150 人を目標に入会を呼び掛けていきます。また欠員分の役員を改選し、会長に斉藤市長、副会長に山木雄三・能代商工会議所会頭を選出しました。

●光りと音の競演に酔う／能代港花火大会　6-7-3

第 4 回能代港まつり花火大会（能代商工会議所など主催）は 22 日夜、能代市の能代港下浜ふ頭で開かれ、詰め掛けた大勢の観衆は、色鮮やかな光と、ごう音が織りなす幻想的な夏の夜のページェントに心をときめかせました。旧二ツ井町との合併で 3 月に新・能代市が誕生したことを記念する 2 尺玉大型花火が大音響とともに地上 500 メートル上空に直径 450 メートルの光の大輪を咲かせるなど、花火は大小合わせて昨年より 5 千発多い 1 万 5 千発を数え、花火師の心意気と技が観衆の熱狂と感嘆の声を誘っていました。

●運営ボランティア募る／宇宙イベント　6-7-4

秋田大の学生宇宙プロジェクトは、8 月 19 日に能代市で行われる能代宇宙イベントの会場整備や車両の誘導など運営ボランティアを募集しています。作業内容は、（1）会場整備（2）テント張り（3）駐車場内の誘導（4）草刈り――で、いずれかへの参加でも可。作業日は、（1）（2）が 8 月 17 日、（3）はイベント当日の 8 月 19 日。（4）は 7 月下旬から 8 月上旬のうち数日間を予定し、いずれも現地集合・解散。

●宇宙開発の“卵”全国から／能代 6-7-5

能代市の浅内鉱さい堆積場跡地で 8 月 19 日に開かれる「能代宇宙イベント」の概要がまとまりました。モデルロケットを使った自律制御型ロボットのフライバックコンペが初めて実施されるほか、秋田大も初参戦する大型のハイブリッドロケット打ち上げ、一般愛好者や高校生もエントリーするモデルロケットの打ち上げなどを計画しており、遠くは九州大、香川大も参加します。宇宙開発の“卵”たちが全国から集い、宇宙への夢、技術、アイデアを競い合います。子どもたち対象のモデルロケット打ち上げ体験も計画しています。

●雨の中、熱い走り／大潟村 6-7-6

太陽電池をエネルギー源に 3 日間で 25 時間を走破する 2006 ワールド・ソーラーカー・ラリー（WSR）と第 8 回全日本学生ソーラー＆FC カーチャンピオンシップ（JISFC）は 28 日、合わせて 32 台が参加して大潟村のソーラースポーツライン（1 週 25 キロ）で開幕しました。あいにくの雨に悩まされながらも、各チームとも静かでいながら熱い走りをコース上で繰り広げられました。

●五能線の全線開通 70 周年で式典 6-7-7

JR 五能線の全線開通 70 周年記念式典は 30 日、青森県深浦町艫作（へなし）の「五能線全通記念碑」前で行われ、これまでの歴史を振り返るとともに、くす玉割りやタイムカプセル埋設などで新たな発展を祈念しました。JR や沿線関係者など 30 人が出席し、JR 秋田支社の吉田幸一支社長は式辞で、「今後八戸―新青森間の新幹線が出来ると、北東北の周回が見込まれており、地元の協力を得て一層の発展を目指したい」と述べました。

●能代で手作りロケット講習会 6-7-8

銀河連邦ノシロ共和国のモデルロケット手作り講習会は 30 日、能代市中央公民館と淳三小グラウンドで開かれました。子どもたちは紙を使ったロケット作りに挑戦、宇宙への夢を乗せて空へ打ち上げ、歓声と発射音を響かせました。2 回目となる今年は秋田大工学資源学部附属ものづくり創造工学センターの秋山演亮さんと同大の学生 20 人が講師を務め、市内の小中学生と保護者ら計約 20 人が参加しました。

能代の食・農・魚の話題

●ソラマメ、収穫始まる／三種町 6-7-9

三種町の特産ソラマメの収穫が始まりました。春先の低温で作業は遅れましたが、気温が上がり過ぎないため逆に市場評価の低下につながる「サビ」の入りがなく、栽培農家は「質のいいものばかりがそろった」と自信を持って収穫しました。

●地域資源を全国展開／三種、八峰 6-7-10

地域の素材を生かした商品開発などを支援する中小企業庁の「地域資源全国展開プロジェクト」の採用事業がこのほど発表になり、能代山本関係では三種町商工会と白神八峰商工会が対象に選定されました。両商工会には 800 万円ずつの助成金が交付され、三種町では特産の「じゅんさい鍋」の食べ方を全国発信するほか、白神八峰では自然を生かした各種ツーリズムの魅力を PR する計画です。

●露地メロンの収穫盛ん／三種町浜口 6-7-11

三種町浜口地区で特産メロンの収穫が盛んに行われています。畑にずらりと並ぶビニールトンネルからは丸々とした「八竜メロン」が顔をのぞかせ、栽培農家は朝早くから収穫に精を出しています。今年は春先の低温や日照不足のため、生育は平年より 5～7 日ほど遅れており、ハウスは 6 月 20 日ごろ、露地は同 30 日ごろから収穫が始まりました。

収穫開始とともに、メロンの盗難防止のため、今年も夜間のメロンパトロールが始まりました。

●アグリビジネスに挑戦を／能代市 6-7-12

能代市は、アグリビジネスに挑戦する農業者らを募っています。市の基幹産業である農業や関連産業の振興、地産地消の推進などを狙いに、地元農産物の直売活動や宅配、加工品の開発・販売といった「農」に関連した事業に取り組もうとする個人や団体、企業などが対象で、企画を公募、プレゼンテーション形式の審査を行い、報奨金 50 万円を“プレゼント”します。

子ども・教育・学校

●淳城３校統合／閉校式は１１月 6-7-13

能代市の淳城第一、淳城第二、淳城第三の３つの小学校は、来年統合されて、淳城西小学校と淳城南小学校の２校になります。現在の淳城３校の閉校式は１１月に行われることになりました。新しい学校の校歌の歌詞に入れたい言葉と校章のデザインを３校の児童から募集したところ、松や桜など３校の特色を盛り込んだ案が多く見られました

木・木材

●原木好調、全量が落札／銘青会まつり 6-7-14

県銘木青年会（松岡元会長）の第 22 回銘青会まつりは 21 日から 2 日間の日程で能代市河戸川の県銘木センターで行われました。製品の総出品数は 7400 点余、原木は国有林委託材中心に 445 立方メートルで一昨年秋の全銘展（全国銘木展示会）以来の出品量で、初日のみの原木市は全量完売となったほか、製品も床天、厚板を中心に買い気が高かったのですが、天井板、腰板はいまひとつ勢いに欠ける展開となりました。２日間の原木を含めた総売り上げは目標を上回るほぼ 2 億円に達しました。

スポーツ・文化

●世界マスターズ柔道で今立さんが大活躍 6-7-15

フランスのトゥールで開かれた第 8 回世界マスターズ柔道選手権大会に今立篤子さん（56）＝能代弘道館道場主＝が初出場し、「固（かため）の形」で優勝、「古式の形」で準優勝、「柔の形」で 3 位に入り、エントリーした 3 部門すべてでメダルに輝きました。

暮らし

●10 月から重機試掘へ／旧能代産廃 6-7-17

県議会福祉環境委員会（渋谷正敏委員長）は 13 日、能代市浅内の旧能代産業廃棄物処理センターを視察しました。初期の処分場では埋設物のボーリング調査を実施中で、調査結果と今後の検討協議を踏まえ、10 月からの重機試掘調査に臨む方針を説明しました。これまでのボーリング調査で、金属片が発見されたほか、全体的に油のにおいがする木くず、杉皮のようなものが多く見られました。

●1 割がリサイクル不適／能代地区 6-7-18

能代市は、能代地区の 17 年度資源ごみリサイクル実績をまとめました。瓶は 391.70 トン、ペットボトルが 122.24 トン再資源化されました。ごみ減量化や資源化推進が狙いだが、回収量のうち 1 割弱が内部の汚れなどでリサイクルには不適とされ「残さ（ごみ）」として処理されたほか、再利用できる瓶も 36 トン余あり、再資源化へのマナー順守や再利用との区別の確認がいま一度必要といえそうです。

米代川

●米代川をサクラマスの宝庫に 6-7-19

米代川水系の内水面漁協が連携し、来春からサクラマスの稚魚の放流事業に取り組むことになりました。能代山本の粕毛（藤里町）、常盤川（能代市）など県北の１０漁協が加盟する米代川水系漁協連絡協議会の場で確認しました。平成２１年をめどにサクラマスの資源枯渇の歯止めと増殖を目的とする「漁業権内容魚種指定」を目指すことにしました。

米代川水系は、サクラマスが遡上する全国有数の河川として知られ、解禁となる６月１日から８月末にかけて県内外から大勢の釣り客が訪れています。しかし、一方で乱獲も指摘され、サクラマスが枯渇してしまうという懸念が持たれています。

今秋、県から許可を得て、遡上できずに堰堤にとどまっているサクラマスを採捕し、採卵、孵化した稚魚を来年６月に放流する予定です。

港

●リサイクル港へ名乗り／能代港 6-7-20

能代港の港湾管理者である県は、国土交通省が総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の第 3 次募集に応募しました。県内の応募は能代港のみ。

●能代港、コスト面で魅力／同和鉱業社長 6-7-21

第 12 回能代山本フォーラム 21（千場革治代表）は 3 日、能代市元町の平安閣で、同和鉱業代表取締役社長で CEO の吉川廣和さんを招いた講演会を開きました。吉川社長は「能代港は運送コストで魅力があり、東アジアにおける都市鉱石の輸入にぜひ活用したい」と強い意欲を見せるとともに、実現に向けて地元相互理解と協力を要請しました。

●リサイクルポート実現へ／港湾振興会 6-7-22

能代港湾振興会（会長・斉藤能代市長）の総会は 6 日、能代市役所二ツ井町庁舎で開かれ、今年度事業計画・予算案などを原案通り承認しました。設立 2 年目の今年度を「事業実施の実質初年度」と位置付け、情報の受発信、リサイクルポート先進地視察、港湾の改修事業や機能強化、道路整備の要望活動などを展開していきます。

●能代港を生かし観光振興へ 6-7-23

国交省が実施する「みなと観光交流促進プロジェクト」のモデル港に能代港が選ばれました。全国で 10 カ所を選定し、東北では能代港と小名浜港（福島県）で実施されます。能代市は主催団体となる協議会を立ち上げ、遊漁船を活用して海から白神山地を眺めるクルージングをメーンに、市内観光や「食」との組み合わせなどで観光コース・メニューの開拓を進め、世界自然遺産のふもとにある「港町・能代」という新たな切り口で観光振興を図っていきたい考えです。

●リサイクル港化探るフォーラム 6-7-24

能代港湾振興会（会長・斉藤能代市長）主催の「リサイクル事業と能代港の利活用を考えるフォーラム」は、17 日午後 1 時 30 分から市文化会館中ホールで開かれ、参加者は講演やパネルディスカッションを通じて、資源循環型社会に向かう社会情勢、時代の流れを踏まえた能代港の役割、県北地域活性化への道筋を模索しました。

行政

●総合計画策定へ動き出す／能代市 6-7-25

能代市は、新市の最上位計画となる総合計画の策定方針を決めました。策定過程・実行段階での市民参画のほか、財源の有効活用と施策の着実な推進を重視するスタンスで、「新市建設計画を尊重しつつ十分な検討をしながら策定する」とし、成果目標の設定や重点施策の明確化、合併効果の発揮など五つの視点を掲げています。年度内の基本構想素案のとりまとめを目指し、19 年秋に基本構想と基本計画を決定、20 年度スタートのスケジュールで、新市がこの 10 年間で歩む道を具体化します。一方で、厳しい財政事情を背景に事業の取捨選択など、市民の十分な理解を得ながら実効性のある計画策定が求められます。

●松くい虫対策など 8 項目要望／能代市 6-7-26

能代市は、国、県に対する要望事項をまとめました。秋田社会保険病院の存続や日本海沿岸東北自動車道の早期完成、松くい虫対策など 8 項目で、いずれも旧能代市が要望していた事項の継続で、4 日に県山本地域振興局、11 日は県庁に出向き担当部長との協議に臨みました。

●畠町駐車帯には難色／県 6-7-27

能代市の国・県要望についての意見交換会は 4 日、同市の県山本地域振興局会議室で開かれ、市は木材産業振興への支援や秋田社会保険病院の存続、松くい虫対策など、地域課題の解決や住民サービスの維持・向上への支援を同振興局に要請、県側の考え方などを聞きました。この中で、畠町への駐車帯設置に対し、同振興局側は「まちづくりは地域の意見集約が必要」と地域のコンセンサスに疑問をのぞかせながら、「交通量から見て、道路管理者としては、首をかしげざるを得ない。4 車線が必要な区域」などと難色を示しました。

その他

●宇宙開発見据え 13 の実験／JAXA 6-7-28

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の能代多目的実験場で今年度実施する実験計画の概要が明らかにされました。燃焼試験や性能評価試験など 13 の実験を行う予定で、「安全・安心を肝に銘じて多目的実験場の運営、実験に取り組む」としています。

交　通

●訪韓の機運醸成を／定期便利用促進協 6-7-29

秋田―ソウル国際定期便の利用者拡大を目指す能代山本地域国際定期便利用促進協議会の総会は 11 日、県山本地域振興局で開かれました。会長に山木雄三能代商工会議所会頭を互選し、韓国エージェント管内視察会で旅行商品を紹介して誘客を図るほか、韓国文化講座を開設して訪韓機運を高めます。

●搭乗率は 63・7%に／あきた北空港 6-7-30

県大館能代空港管理事務所は、同空港の 6 月の利用状況をまとめました。東京便 2 往復、大阪便 1 往復を合わせた利用者は昨年同月を 2158 人、14・7%下回る 1 万 2561 人で、搭乗率は 63・7%で、採算ラインとされる 60%を上回りました。

●高速試験電車が走行／秋田新幹線 6-7-31

新幹線の高速化に取り組む JR 東日本は 19 日、新幹線高速試験電車「FASTECH（ファステック）360Z」の走行試験を秋田新幹線区間内で開始しました。この高速試験電車が在来線区間を走行するのは初めてです。100 人余の技術者らが乗車して実用化に向けた各種データを収集しました。

●大阪便、ジェット機に／あきた北空港 6-7-32

全日空（ANA）は、大館能代（あきた北）空港に乗り入れている大阪・伊丹便を 74 人乗りのプロペラ機から 166 人乗りのジェット機（A320）に切り替えました。夏場の観光需要を見込んだ 8 月 31 日までの期間限定運航します。県大館能代空港管理事務所によると、初日の 21 日は北空港に 85 人を乗せて到着、出発便には 50 人が乗り込みました。

●能代南―能代東が開通／琴丘能代道路 6-7-33

日本海沿岸東北自動車道（日沿道）の機能を代替する琴丘能代道路能代南 IC（インターチェンジ）―能代東 IC 間（延長 6.7 キロ）の開通式が 29 日、能代市鰄渕の能代東 IC で行われました。二ツ井 IC（仮称）と併せて当初は 19 年度開通の見込みだったが、工事が順調に進み 1 年早まりました。開通区間の通行料金は無料で、能代市街地の交通渋滞の解消や地域活性化などへの波及効果が期待されています。

お 知　ら せ

ブログ　『能代でらっと情報』

能代の最新の話題を毎日、ブログで発信しています。

お近くのパソコンでぜひご覧ください。

《１》　　検索サイトから

Google（グーグル）　Infoseek（インフォシーク）goo（グー）

Excite（エキサイト）　Yahoo（ヤフー）

検索『能代でらっと情報』と入れて、検索してください。

《２》　　能代でらっと情報のＵＲＬ

http://blog.livedoor.jp/noshiro_kanko/

《３》能代市のホームページ　能代の観光からもブログに入れます。

① 検索サイト　→　②能代市　→　③観光情報　→

④能代地域　　→　⑤能代市観光　→　⑥能代でらっと情報

◎能代ＰＲ大使のみなさんのところの身近な話題や能代山本周辺のことについての問い合わせなど、気軽にご連絡ください。

能代ＰＲ大使から

（項　目）	（能代ＰＲ大使）
（内　容）	

ＦＡＸ	０１８５－８９－１７７６

電話番号	０１８５－８９－２１７９

Ｅメール　syokou@city.noshiro.akita.jp
kouki-ebisuya@city.noshiro.akita.jp